

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 防府市立 佐波中学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例：小中高一貫)
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒747-0031
山口県防府市迫戸町16番37号

E-mail saba-j@c-able.ne.jp
Website http://www.c-able.ne.jp/~hofusaba/

幼児児童生徒数 男子 137名 女子 159名 合計 296名
幼児・児童・生徒の年齢 12歳～15歳

2. 報告期間

平成29年4月～平成30年3月

※報告書提出時点～平成30年3月末までの活動は、予定(見込み)として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項1-1、2-1に対応

本校は、ユネスコスクールの活動を通して、「ふるさとを愛し、ふるさとから愛される心豊かな子ども」の育成に取り組んでいる。

具体的には、①国際理解に係わる活動、②世界遺産に係わる学習、③防災に係わる学習、④伝統文化に係わる学習を行った。

① 国際理解に係わる活動

ユニクロが実施している『“届けよう、服のチカラ”プロジェクト』に協賛し、生徒会執行部が中心となり、子ども服の回収を、9月～11月にかけて行った。子ども服の回収は学校内にとどまらず、広く校区内の保育園や保育所、幼稚園、小学校にも生徒会執行部自らが回収ボックスを持参し、設置のお願いと回収の協力を依頼しながら取り組んだ。今年度は、4,330着の子ども服を回収することができ、集められた服は、タンザニアの難民キャンプへ届けられた。後日、ユニクロから届けられた、難民キャンプに服が届けられた様子や、現地の子どもの様子などをまとめたフォトレポートは、活動に協力いただいた諸団体に、生徒自らの手でお礼と報告を兼ねて配付した。

② 世界遺産に係わる学習

校区はその昔、周防の国府が置かれていた土地柄であり、防府天満宮、周防国分寺等、奈良や京都との縁のある史跡も多く、修学旅行では、奈良や京都の世界遺産に認定されている神社仏閣についての調べ学習を行い、実際に現地を訪問し、調べた学習内容を新聞にまとめ展示した。

③ 防災に係わる学習

救命救急の裾野を広げるために、市消防本部の指導による救急救命講習を実施した。最初は胸骨圧迫(心臓のマッサージ)の仕方に苦戦していた生徒達も消防士の的確な指導により2時間の講習中にずいぶん上達することができた。今回の講習を行うまでは、本校の玄関前にAED(自動体外式除細動器)が設置してあることに48%の生徒が気付いておらず、さらに使用方法について知っていたのはわずか2名であった。講習後のアンケートでは、95%の生徒が、心肺蘇生法やAEDを使える自信がついたと回答した。また、生徒の口から家族へ、地域へ情報が伝わることも、救急救命の裾野を広げる一助になると考える。

④ 伝統文化に係わる学習

地域の方の指導による和太鼓の演奏技術の習得を行い、文化祭や地域のふれあい祭りで、和太鼓の演奏を披露した。

校区内にある防府天満宮の祭事にもボランティアとして進んで参加した。特に、ゴールデンウィーク中に行われる「花回廊」においては、ビオラのプランターの世話から始め、期間中は部活動単位で交代しながら水やりと、花殻摘みを行った。



① の写真(“届けよう、服のチカラ”プロジェクト)



② の写真(修学旅行)



③ の写真(救急救命講習)



④ の写真(和太鼓)

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input checked="" type="checkbox"/> 3. 防災	<input type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input checked="" type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input checked="" type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input checked="" type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input checked="" type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間 (複数選択可)

<input type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input checked="" type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input checked="" type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input type="checkbox"/> 5. その他(自由記述)	

エ. 使用した教材 (書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名)

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

- ・各教科の年間指導計画作成に当たっては、ESDとのつながりを意識して、年間計画の中にESDとの関連性を明記するようにしている。
- ・地域の伝統文化を継承する活動においては、文化祭の縦割り集団による活動の枠組みに「和太鼓」のグループを設け、和太鼓を演奏したい生徒を募り、地域の方のご指導による和太鼓の演奏技術の伝承を行っている。文化祭のステージ上で発表させるだけでなく、地域のふれあい祭りにも出向き、伝統文化としての「和太鼓」の発表の場を設定している。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（200字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

- ・特別活動や総合的な学習の時間を活用して、学校全体で活動に取り組んでいる。発達の段階に応じて、各学年でESDの理念に基づいた活動を行ったり、生徒会を中心として全校生徒が地域や世界に貢献できる活動をしたりしている。国際理解の観点に基づいた活動は、生徒会を中心として行っている。生徒の中にもESDを意識した活動が定着してきており、継続して取り組むことが期待される。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部/外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（200字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

生徒の変容については、学校評価における「生徒アンケート」の設問項目により評価している。「よくあてはまる」「あてはまる」に当たる割合の年時的な変化は次のようになっている。

設問項目	H26	H27	H28	H29
地域行事やボランティア活動に積極的に参加した。	33%	52%	54%	52%
生徒会活動は活発である。	75%	84%	85%	95%
佐波中学校の生徒であることに満足している。	76%	75%	87%	90%

○成果

地域行事やボランティア活動に参加する生徒が増加し、自己肯定感や自己有用感が醸成されている。その結果として、母校への愛着と誇りをもつ生徒が増加してきている。

●課題

教職員、生徒ともに、現状ではESDについての理解が十分とはいええず、研修の機会を拡充することが必要である。また、よりよい活動を求めた情報交換ができるよう、加盟校との交流を進める必要がある。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度) ※チェック事項 2-2 に対応

・学校だよりや広報誌、地域の公民館の広報誌に本校の活動内容を明記した。校外に情報が発信されたことで、本校での活動を支援したり、自身が活動に参加したりする地域住民が増加している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)
(200字程度) ※チェック事項 2-3 に対応

・本年度は、地域のふれあい祭りで、ユネスコスクールとしての取組を生徒会執行部が発表し、本校がどのような活動を行っているかを広めることができた。このことにより、地域と連携した活動が一層充実していくものとする。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成(200字程度) ※チェック事項 2-4 に対応

・毎年、ユネスコスクール全国大会に、担当教員を派遣し、優れた活動の報告をもとに、本校の活動の改善を図る一助としている。近隣にユネスコスクールがないことから、生徒レベルでの情報交換ができるように、他のユネスコスクールとの交流を模索したいと考える。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき(特に強調したい)内容(例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化)(200字程度) ※チェック事項 2-5 に対応

・ユネスコスクールとしての活動を行うことで、地域との連携を深めた教育活動を実践することができた。生徒自身は、地域の中で生きているということを改めて実感するとともに、世界のために自分たちができることについて深く考え、実行することができた。国際理解の面で、生徒の成長がうまく図れたように思う。

(3) 平成30年度の活動計画(200~400字程度)

- ・平成29年度に実施した活動を継続して行うとともに、さらに地域と連携した活動を模索する。そのためにも、本校の取組を今年度以上に地域へ発信するとともに、地域の協力が必要な活動に関しては、効果的な宣伝を行う。
- ・ユニクロと連携した『“届けよう、服のチカラ”プロジェクト』を本校の中心活動に掲げ、今年度以上に協力事業所の数を増やしたり、宣伝方法を工夫したりして、より多くの古着を難民に届ける。
- ・県内のユネスコスクールと情報を共有し、生徒会や教職員間で吟味した上で、取り入れることができそうな活動を進んで企画する。